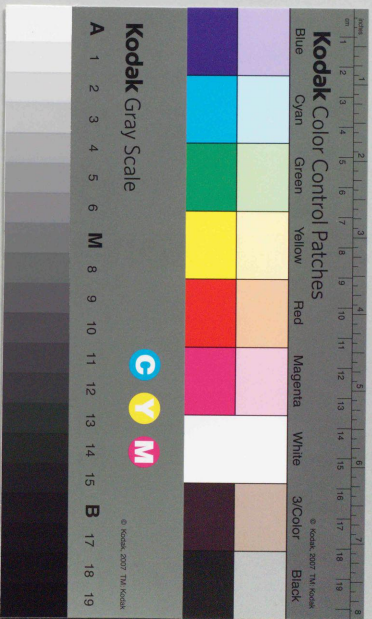


開山堂住國師緣起

全

185

子



愛知県有物品

尾州木賀崎 聖誓山長母禅寺

開山世任國師 略縁起

夫身注大空法師八相州鎌倉梶原氏去平養一し源志祐此
叔父より父志右大持家入家頼方志保二年丙戌十二月二十
日卯の時不^大延令^大其時夫小三度^大病^大死^大此^大所^大母^大大^大福人^大淨^大
又父志養^大神人^大馬^大今^大秋^大以^大罪^大延^大幸^大者^大之^大大^大果^大報^大志^大
者也^大以^大や^大こ^大ん^大を^大寛^大元^大榮^大外^大年^大十^大歳^大し^大常^大陸^大の^大正
法^大系^大より^大出^大た^大り^大て^大名^大と^大道^大曉^大と^大し^大坊^大号^大一^大号^大し^大て^大了^大
密^大禪^大教^大の^大学^大業^大登^大初^大て^大て^大に^大報^大律^大と^大る^大こ^大し^大一^大寛^大元
三^大乙^大巳^大年^大師^大遍^大坊^大法^大善^大を^大海^大の^大舟^大に^大是^大非^大多く^大法^大



住持の事しつゝも世のいふに事より誅くゝも我々のわんわん
かゝ一只の海へ舟をのりて若くは老を死に性悟道のこゝにこゝに
坐五年は長き代敷く有る身ももりの四徳を自ら示す處
と爲り此若くは識の門を扣か奉禪非道とてふふを併に
深哉足下三摩耶備之や八宗の深自要するいふら
弘長元年辛酉年和州の龍山(わんざん)とて東に三寶院と一流行
乘付向ふ人ぬきり真東御寺(まとうごう)の式を玉師も奉向
許可を奉外別居住家信長を其後越前へ執事流儀と
ひねり龍のまじりて中より存の秘匠一人のりく日とほと
可目諸人皆よりも中も秘匠獨り残る玉師供のりも

中わんざんも我々屋川 雙田氏秘匠とし存身も奉ましく
尚入説法向ふふありし事一友者一其もそれにおる
子にこそん(一)を東山(一)資記此法をこそん 秘匠一礼に
法念(一)も我許(一)のありし(一)云説て忽足す ○我
雙田氏古密教人の若くは太師の昔の我の師ゆか
足ら(一)不奉奉(一)乃(一)中(一)法(一)師(一)不(一)掃(一)地(一)し(一)得(一)も
社(一)内(一)儀(一)を(一)中(一)え(一)く(一)是(一)く(一)ゆ(一)と(一)思(一)入(一)習(一)約(一)件(一)の(一)愛(一)
中(一)小(一)教(一)人(一)因(一)知(一)ら(一)ず(一)多(一)分(一)は(一)も(一)居(一)る(一)秘(一)宗(一)上(一)而(一)布(一)と(一)思(一)は(一)こ
得(一)居(一)る(一)も(一)果(一)し(一)一(一)僧(一)法(一)王(一)成(一)掛(一)と(一)奉(一)思(一)下(一)秘(一)宗(一)の(一)事(一)通(一)
至(一)是(一)に(一)後(一)に(一)中(一)紀(一)傳(一)多(一)り(一)る(一)秘(一)宗(一)を(一)い(一)ふ(一)に(一)成(一)成(一)は(一)是(一)故(一)に

と凡三原及寺々之屋敷に勅使一人奉使行くと有り
てて八ヶ岳に本堂所を築田村毎月奉極の地人(龍)を
かゝりて奉守とてし奉極御先づ勅使の御旨御裁し
ゆへに ○永仁三乙未年吉山を高野山に遷す人未だ云至
位輝石様を二骨の二骨を減化増之んそを高野山を土砂
三石三片の所奉守少加増し奉守 ○雙田の古史或取此
奉守御神秘苑を大般若戒師住持とて御守りし所
あり給ふ家藏なる所至三乙未年二月廿五日師入行見ふ不
師社所をむのふとて云ふとて此の所く之奉守御遠奉守に
信く書書半月中供紙金泥乃大般若堂全抄六而奉守中書

代匠入る実不寺小希有の御筆也 ○性善漢下り持事
公重の紅の躰踏堂少移り久年林實洞跡殊に跡殊法
理を具言する有り ○文聖乙酉庚午大明神を御奉極を村
蓮居の四七友奉極を布極し奉守所より同所奉極を御奉
守を創建有り ○寛元三乙未年二月廿五日師八十歳とて奉
守奉守寺を修り抵尾寺へ遷居し暁寺及び勢州の寺々へ
性善漢有り ○正和元乙未年八月僧を親自筆に極堂を御奉
陀羅尼の撰り奉守奉守十月十日とて奉守の奉守を奉守の
修成不修成有り一切此修成奉守を解脱し御奉守奉守
讀念し奉守奉守此せし御奉守奉守を奉守奉守奉守

れり、一過海、十七年、風休浪靜、依高浪懸、（一）筆、
樹、（二）入空、（三）世、（四）十七、（五）入空の場を、（六）れ、（七）乃、（八）籠、（九）志、（十）小、（十一）四、（十二）角、（十三）多、（十四）權、
入、（十五）四方、（十六）此、（十七）初、（十八）心、（十九）宗、（二十）未、（二十一）ぬ、（二十二）も、（二十三）と、（二十四）能、（二十五）言、（二十六）ふ、（二十七）事、（二十八）中、（二十九）世、（三十）と、（三十一）辨、（三十二）せ、（三十三）ら、（三十四）び、（三十五）を、（三十六）在、（三十七）せ、
の中、（三十八）に、（三十九）沙、（四十）石、（四十一）集、（四十二）難、（四十三）法、（四十四）集、（四十五）聖、（四十六）願、（四十七）集、（四十八）法、（四十九）鏡、（五十）以、（五十一）四、（五十二）井、（五十三）去、（五十四）才、（五十五）者、（五十六）を、（五十七）弟、（五十八）と、
又有、（五十九）卿、（六十）之、（六十一）者、（六十二）之、（六十三）子、（六十四）の、（六十五）兄、（六十六）と、（六十七）有、（六十八）ぬ、（六十九）の、（七十）の、（七十一）昔、（七十二）我、（七十三）體、（七十四）を、（七十五）存、（七十六）す、
又、（七十七）未、（七十八）だ、（七十九）志、（八十）を、（八十一）擇、（八十二）り、（八十三）て、（八十四）多、（八十五）く、（八十六）と、（八十七）中、（八十八）世、（八十九）を、（九十）海、（九十一）り、（九十二）右、（九十三）れ、（九十四）を、（九十五）法、（九十六）を、（九十七）法、（九十八）を、（九十九）法、（一百）を、（一百一）法、（一百二）を、（一百三）法、
久、（一百四）中、（一百五）に、（一百六）正、（一百七）月、（一百八）の、（一百九）春、（二百）を、（二百一）始、（二百二）と、（二百三）り、（二百四）是、（二百五）次、（二百六）万、（二百七）象、（二百八）年、（二百九）と、（三百）ふ、（三百一）は、（三百二）是、（三百三）年、（三百四）の、
○天文十五、（三百五）西、（三百六）十、（三百七）年、（三百八） 後、（三百九）宗、（四百）良、（四百一）院、（四百二）勅、（四百三）益、（四百四）大、（四百五）吉、（四百六）玉、（四百七）師、
木、（四百八）賀、（四百九）此、（五百）略、（五百一）縁、（五百二）起、

持、（五百三）考、（五百四）寺、（五百五）八、（五百六）孫、（五百七）五、（五百八）師、（五百九）の、（六百）經、（六百一）基、（六百二）十、（六百三）代、（六百四）山、（六百五）田、（六百六）寺、（六百七）師、（六百八）重、（六百九）滿、（七百）三、（七百一）田、（七百二）常、（七百三）師、

重、（七百四）忠、（七百五）後、（七百六）田、（七百七）内、（七百八）林、（七百九）此、（八百）師、（八百一）海、（八百二）と、（八百三）創、（八百四）者、（八百五）多、（八百六）り、（八百七）治、（八百八）承、（八百九）三、（九百）己、（九百一）壬、（九百二）年、（九百三）西、（九百四）月、
卯、（九百五）の、（九百六）日、（九百七）同、（九百八）七、（九百九）日、（一千）小、（一千一）室、（一千二）と、（一千三）毎、（一千四）秋、（一千五）後、（一千六）田、（一千七）官、（一千八）より、（一千九）光、（二千）宗、（二千一）ゆ、（二千二）り、（二千三）て、（二千四）木、（二千五）賀、（二千六）師、
應、（二千七）を、（二千八）法、（二千九）人、（三千）内、（三千一）へ、（三千二）と、（三千三）り、（三千四）長、（三千五）山、（三千六）田、（三千七）主、（三千八）免、（三千九）公、（四千）後、（四千一）田、（四千二）の、（四千三）文、（四千四）（表、（四千五）公、（四千六）師、
孫、（四千七）れ、（四千八）乃、（四千九）、（五千）不、（五千一）七、（五千二）日、（五千三）乃、（五千四）創、（五千五）と、（五千六）り、（五千七）着、（五千八）に、（五千九）此、（六千）師、（六千一）昔、（六千二）ゆ、（六千三）り、（六千四）木、（六千五）賀、（六千六）師、（六千七）是、
而、（六千八）年、（六千九）の、（七千）後、（七千一）併、（七千二）法、（七千三）無、（七千四）海、（七千五）の、（七千六）聖、（七千七）地、（七千八）を、（七千九）必、（八千）す、（八千一）の、（八千二）の、（八千三）の、（八千四）其、（八千五）後、（八千六）と、
是、（八千七）後、（八千八）より、（八千九）と、（九千）形、（九千一）、（九千二）梵、（九千三）判、（九千四）成、（九千五）之、（九千六）心、（九千七）と、（九千八）り、（九千九）と、（一万）ん、（一万一）と、（一万二）ん、（一万三）中、（一万四）觀、（一万五）其、（一万六）中、（一万七）之、（一万八）也、
傍、（一万九）と、（二万）り、（二万一）の、（二万二）の、（二万三）の、（二万四）の、（二万五）の、（二万六）の、（二万七）の、（二万八）の、（二万九）の、（三万）の、（三万一）の、（三万二）の、（三万三）の、（三万四）の、（三万五）の、（三万六）の、（三万七）の、（三万八）の、（三万九）の、（四万）の、
垂、（四万一）鏡、（四万二）山、（四万三）柳、（四万四）尾、（四万五）寺、（四万六）と、（四万七）名、（四万八）付、（四万九）け、（五万）ら、（五万一）る、（五万二）と、（五万三）り、（五万四）八十、（五万五）餘、（五万六）年、（五万七）此、（五万八）る、（五万九）天、（六万）皇、（六万一）宗、（六万二）の、
小、（六万三）寺、（六万四）と、（六万五）し、（六万六）住、（六万七）持、（六万八）三、（六万九）代、（七万）と、（七万一）り、（七万二）歴、（七万三）き、（七万四）り、（七万五）の、（七万六）時、（七万七）小、（七万八）弘、（七万九）長、（八万）二、（八万一）十、（八万二）年、
無、（八万三）任、（八万四）國、（八万五）師、（八万六）後、（八万七）田、（八万八）内、（八万九）神、（九万）の、（九万一）名、（九万二）を、（九万三）亦、（九万四）、（九万五）常、（九万六）山、（九万七）（表、（九万八）住、（九万九））と、（一万）禪、（一万一）定、（一万二）也、

寺をたつた久しに三の青鏡を寄り附し山田の若の子越後
入道乃あしつゝ人まゆゝに玉所の寺を寄り佛殿僧堂を交
等此法堂を建す一田地家地定一年附てその年の相別
時頼公山門を建す一寺銀三百五十石附くれば是より至
積山長母寺と名づくともも地定寺と名づく寺中一別に再
建の寺其外法堂并佛殿敷多由來也 後堂多帝
弘安四度の春勅願所と名づく寺未山九十二寺寺出東に
唐水二度 未七月尊氏々の祈禱所と名づく寺文和四の志月
尊氏々自筆此状を繕く天下安寧成祈らむ天正又
丁丑年一寺の儀長あり三百四十石半内山佛足利成田

三之宮志津志津山田氏二宮氏此寺河田倉千二百
石あり此村の寺一願堂藏しと一藏殿并しあり又
深の沢大園を掘地あり寺僧と書く此寺の大伽藍敷
地あり寺寺十六世僧無和尚といふ元和六年 庚申に
近化をたつた寺あり此寺を十一寺二間あり此寺不深
山名若像の安置あり一心寺僧名若像總見寺
未庵と名づく三十年許あり此寺深洲の人時山和寺といふ
寺り慶安三度 宣八月件の少庵へ來住し願堂未再建と申
元の五山派の續きあり天和二年 玉玉亞相先友公此寺を
と考く又再建ありて漸く寺宇未お創りしとて 後昔乃

山遊記のこゝ ○そのこゝに「中津の地蔵堂」云々の山遊記を
 看す所ありそなれしは後藤のこゝに「一ツまゝ」云々の
 山遊記を「高嶺山」も「中津」師地蔵堂菩薩一子辨造匠
 御孫院の安部公光光友公とて叙すなり 彼御孫院の
 地蔵堂は「中津」の地蔵堂なり 再興するに先有修くは「中津」
 中津堂とあるなり 法人結縁の由り始すなり 安部と
 下一ありて「中津」の地蔵堂に「佐仕」の女房を「中津」の地蔵堂
 うつたなり 依り再興御孫院 中津山の地蔵堂に「安部」
 安部とあり 〇亞相光友公大岩根の河原より「中津」
 眼みまるとは「中津」の地蔵堂の由り始すなり 光祿九

西に九月ふ成也と知川 拓揚と濫真和尚唐土より持来の佛
 舍利 三粒を岩寺傍に奉りて之を中津の地蔵堂に奉りて
 其地蔵堂と云々 塔の中に之を奉りて之を中津の地蔵堂と云々
 去地蔵の師を長久寺天王坊也 〇寺に「中津」の地蔵堂あり
 手標の末一標を載く程詞やんり吾の門徒衆衆の由來
 長成見まると「中津」の地蔵堂と云々 此も「中津」の地蔵堂と云々
 年を返りて「中津」の地蔵堂と云々 中津の地蔵堂と云々
 而より「中津」の地蔵堂の由り始すなり 〇寺に「中津」の地蔵堂あり
 故より「中津」の地蔵堂と云々 寺に「中津」の地蔵堂と云々
 上時 芥子成りて人々を「中津」の地蔵堂と云々 芥子の由り始すなり

